

令和3年度 嶺北特別支援学校 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題は適切かどうか。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切かどうか。

(意見を聞いた方)

- ・社会福祉法人 かすみが丘学園
就労支援センターワークかすみ センター長 朝倉 昌弥 氏
- ・福井県嶺北親の会 会長 北村 春樹 氏
- ・福井県立嶺北特別支援学校 PTA会長 平田 賢治 氏

(意見)

1・2. 教育課程、学習支援(小学部低学年・高学年)

教職員及び保護者からも一定の評価が得られているように、今後も児童一人一人の発達段階の丁寧な把握や、保護者との共通認識・理解に努めながら、自立に向けた学習課題設定をお願いしたい。

タブレット端末などICT機器を、小学部段階から積極的に活用することで、知的発達の遅れがあっても自分から選択・決定、意思表示をしていくための貴重な支援ツールとして役立てていってほしい。

3. 教育課程、学習支援(中学部)

コロナ禍での困難さ以上に、思春期の難しい年頃ということもあり、個々の目標設定や日々の調整が大変であると察する。今後も、保護者との共通認識・理解を強化し、柔軟な対応をお願いしたい。

行事や集団活動の中に、近年重要性が増しているSDGs(持続可能な開発目標)に関連した題材について、仲間や地域の方々と一緒に取り組んでいく学習内容を盛り込んでいけるとよい。

4. 教育課程・学習支援(高等部)

卒業後の進路を意識するための学習として「現場実習」を位置づけているので、実習の受け入れ先には教職員からの正確な情報提供及び共有が必要であるとともに、保護者にも実習評価を丁寧に伝えていくことが大切である。

5. 教育課程・学習支援(訪問学級)

コロナ禍での学習ということで課題も多いかと思うが、新たな視点でデジタル教材などICT機器の導入や活用も試行してほしい。また、引き続き保護者との連携も工夫しながらお願いしたい。

6. 教育課程、学習支援(寄宿舎)

寄宿舎生活を通じて、多くの子どもたちが成長したことがうかがえる。一部「成長が感じられない」等の意見があるのは残念だが、身辺処理や生活習慣はとても大事なことなので、今後も指導の改善や工夫を継続していってほしい。

7. 健康・安全

コロナ禍の中、行事等が縮小及び中止になったのは残念であるが、学校における感染症対策や活動内容の調整・工夫により、安全・安心な教育環境を整えることに日々尽力していたことがうかがえる。

8. 生徒支援、進路支援

(※前述)卒業後の進路を意識するための学習として「現場実習」を位置づけているので、実習の受け入れ先には教職員からの正確な情報提供及び共有が必要であるとともに、保護者にも実習評価を丁寧に伝えていくことが大切である。

9. 保護者・地域との連携

学校・寄宿舎、保護者、福祉サービス事業所等が、子どもを中心に共通理解を持ちながら日々の支援情報を共有していくことで、連携がさらに強化される。情報のやり取りについては、新しい技術や方法を取り入れことも試行的に行っていくとよい。

【学校関係者評価を踏まえた今後について】

学校関係者からは、特に「児童生徒一人一人の特性に応じた丁寧な支援」や「感染症対策や工夫による安全・安心な教育環境づくり」に対して、高い評価が得られた。いただいた御意見や課題については、管理職を中心に各学部学年や各校務部で検討し、「時代の流れを見据えたICT機器の有効活用による学習展開」や「地域とのつながりの中で学ぶ教育活動」など新しい視点を取り入れながら、次年度の教育目標の設定及び教育実践に生かしていく。